

イギリス大学院留学を終えて

片岡舞

2015～2016 年度グローバル補助金奨学生の片岡舞です。先月、イギリス、マンチェスター大学大学院での1年間の留学生生活を無事終了いたしましたので、1年間を振り返ってご報告させていただきます。

● 学術面

私が専攻した「国際開発学：貧困、紛争と再構築」というコースは、開発学の基本的理論から、紛争分析や平和構築など多岐にわたる分野の授業で構成されており、一見広く浅いようにも感じるが、実は貧困と紛争は深く関連しており、結果的に紛争の全体像を捉えることができたように感じます。一年を通じて、一番多くの時間を費やしたエッセー執筆は、多くの文献から借りた言葉を自分の頭で組み替えて、自分の主張を説得力のある形で証明することが中心でした。これを繰り返したことで、学術英語のスキルの向上をはじめ、長い文献から短時間で自分の必要な情報を読み取り、論理的に文章を構成していく力が身についたと思います。

また、周りのコースメイトが非常に優秀でとても刺激を受けました。特に、紛争当事国出身の人も多く、彼らがこの分野の勉強にけるモチベーションの強さを感じました。改めて、自分が紛争を学ぶ意味を問い直すのに、ウガンダでの2週間のフィールドワークはとてもいい機会でした。紛争の影響で多くの困難を抱える人々と直接会って話すことで、自分が紛争を学ぶ意義を再確認できましたし、今後もこの記憶を忘れないでいきたいです。

● 生活面

マンチェスターでの生活は雨がとても多く、課題が行き詰まっているときに何週間も悪天候が続いて気が滅入ることもありました。それ以外においては留学生にとって過ごしやすい環境でした。様々な国から学生が集まっていることもあり、いろいろな国のレストランで他国の文化を楽しむことができました。

課題に追われているときは、自炊が唯一罪悪感なく休憩できる時間帯であったため、ご飯やお弁当を作るのがとても楽しく、自然と生活力がついたと思います。

● ロータリー関連

現地カウンセラーのイアンさんはとても親切で、受け入れクラブだけでなく近所のクラブにも紹介してくださり、クリスマスには伝統的なイギリス風のランチをご馳走してくださいました。また、クラブではプレゼンテーションなどの人前で話をする機会を何度も頂けて、自分の英語のプレゼンスキルを伸ばすいい機会でした。

また、マンチェスター大学のロータラクトに所属して、他国でロータリーとつながりのある学生たちと知り合って、様々なボランティア活動に参加しました。ロータラクトはコース以外

の友達を作るのにも非常にいい機会で、改めてロータリーのつながりの強さを感じました。

● 近況報告

今年の5月頃に授業は終了し、修士論文執筆期間となりました。同時に4月から就職活動を行っており、イギリスで開催される日本企業の就活イベントに参加したり、エントリーシートの提出などを行い、6月には日本に一時帰国して面接を受けました。無事、望んでいた平和構築の分野で、開発コンサルタント会社で働けることとなりました。

就職活動と同時並行で修士論文提出後から来年度までの期間でできるインターンシップにも応募しており、アメリカ、アトランタのカーターセンターという NGO で、紛争解決プログラムインターンに合格しました。8月からサブサハラアフリカの紛争解決事業のアシスタントとして働いています。契約は9～12ヶ月で、その後内定先で働く予定です。

論文は民族紛争予防としての国民的アイデンティティ構築の効果をブルンジとルワンダの比較研究から検証しました。インターンの開始と修士論文の締め切りが重なってしまい、論文の仕上げは一苦勞でしたが、無事提出に至りました。

改めて振り返ると本当に盛りだくさんの一年間でした。初めての海外での生活で、慣れないことばかりでしたが、ロータリーの皆様のサポートのおかげで無事コースを修了することができました。自分の成長だけで終わりにせず、皆様に頂いた貴重な経験を活かして紛争予防の分野で貢献し続けていきたいです。



カーター元大統領とインターンとの集合写真です。